

1 1 (令和元年度試験) 小カブの冬季栽培における移植適期検討試験

試験の目的

小カブは直播栽培が一般的であり、農業センターで平成 26～28 年度に実施した試験において、冬季栽培の播種適期は 9 月中旬であると結論付けましたが、市内のハウス栽培ではその時期は前作物の栽培中であることが多い状況です。

そのため、直播栽培よりほ場の使用開始時期を遅らせることを目的としたペーパーポット(株日本甜菜製糖の商標)による移植栽培について、平成 30 年度に引き続き、12 月上旬～1 月末の出荷を想定した移植適期等を検討するとともに、育苗日数等が生育や品質に及ぼす影響を調査しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

試験概要

- (1) 供試品種 ゆきわらし(カネコ種苗)
- (2) 栽植密度 条間 15cm, 株間 15cm, 10a 当たり 44,444 株
- (3) その他
 - ・無加温
 - ・内張カーテン, トンネル, 銀ネズ有孔マルチ使用。
 - ・ペーパーポット SM2406 使用, (406 穴, 口径 2cm, 高さ 3cm)

試験区の設定

試験区名	作型	播種日	定植日	育苗日数(日)
9/18 直播区	直播	9 月 18 日	—	—
9/25 移植区	移植	9 月 11 日	9 月 25 日	14
10/2 移植区	移植	9 月 18 日	10 月 2 日	14
10/9 移植区	移植	9 月 25 日	10 月 9 日	14
10/16 移植区 A	移植	9 月 25 日	10 月 16 日	21
10/16 移植区 B	移植	10 月 2 日	10 月 16 日	14

平成 30 年度試験では、9/19 にハウスに直播した区と、同日にペーパーポットに播種し約 2 週間後に苗を移植した 10/2 移植区で、収穫期がほぼ同じでした。

そのため、今回は 9/18 直播区と 10/2 移植区により上記の結果を検証するとともに、同じ播種日で移植日が異なる 10/9 移植区と 10/16 移植区 A, 異なる播種日で移植日が同じ 10/16 移植区 A と 10/16 移植区 B を設け、育苗日数等がその後の生育や品質に及ぼす影響を調査しました。

試験結果

(1) 栽培環境

令和元年度は平成 30 年度と同様に降雪が遅く、11 月 6 日に初雪、11 月 14 日に根雪となりました。12 月 6 日に葉の凍結を初めて確認し、本来なら一度の凍結で葉が傷むことはないものの、急な冷え込みであったためにほとんどの区で葉が傷みました。その後は

暖冬傾向であり、ハウスの最低室温が高めに推移したために、葉が凍結した回数は僅かでした。

期間中の最低外気温は2月9日の -30.9°C であり、その日のハウスの最低室温は -21.5°C でした。

(2) 生育及び収穫調査結果

9/18 直播区は11月下旬に収穫サイズである球径50mm以上になり、10/2 移植区も同じ時期に同等の球径に達し、その後の生育や収量も同等でした。この傾向は平成30年度と同じであることから、10/2 移植区は適性が高い作型であると考えられました。

また、10/9 移植区は、10/2 移植区に比べると平成30年度と同様に生育が緩慢でしたが、外観が1月上旬でも良好だったことから、12月中旬以降の出荷を想定した作型であれば適合性は高いと考えられます。

育苗日数による生育への影響については、育苗日数にかかわらず、ハウスへの移植時期が早い方がよく肥大しました。また、406穴ペーパーポットを用いた21日間の育苗では主根の発達が悪いため、育苗日数は14日程度が望ましいと思われます。

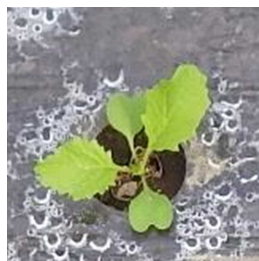


10/2 移植区



10/9 移植区

ともに令和元年11月19日撮影



10/9 移植区



10/16 移植区 A (21 日育苗)



10/16 移植区 B (14 日育苗)

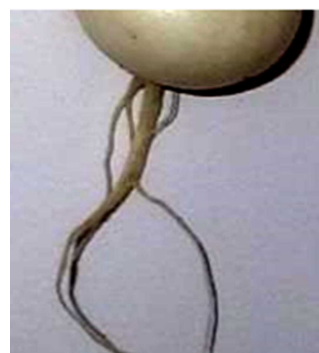
図1 定植時の苗質 (令和元年10月17日撮影)



9/18 直播区



10/16 移植区 A (21 日育苗)



10/16 移植区 B (14 日育苗)

図2 根の形状の差異 (令和元年12月3日撮影)